

めぐみ

2023年
5月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

なんて素敵なサイクル

事務 前田 悠香

突然ですが、つばさ館をご存じですか。資源化センターの隣にある建物で、ゴミ処理の仕組みが学べる施設です。そこでは、まだ使える粗大ゴミや自転車を再生して売り出しています。職人の方たちが、しっかりクリーニングし、機能を復活させてくれるので、見た目は新品のようです。2週間の間に欲しい家具の申し込みができ、抽選が行われます。で、当選者に引き渡され、また新たな家具が置かれ、2週間後に抽選…という流れを繰り返しています。

うちはここで、さまざまなものをゲットしてきました。二段ベッド、子ども用の勉強机、大人用の勉強机、レトロな折り畳み机、レトロな棚、折り畳み自転車…1000円から7000円程だったかな。とってお安く買えました。しかし、子どもたちの成長と生活リズムの変化とともに手放す家具が。先日、二段ベッドを手放し、このたび、子どもの勉強机を手放すことになりました。

うちは2人姉妹なので、最初は二段ベッドに大喜びだったのですが、地震で大きな揺れを経験してから、怖くて眠れなくなってしまったのです。でもいつか使うだろうとしばらく置いていましたが、ふと気づいてしまいました。二段ベッドの隣で布団を敷いて家族4人ギュウギュウで寝ていることに。「こんな状況なら、うちには不要だね。使ってくれる人にあげよう」となり、再びつばさ館へ持っていきました。

勉強机も手放すことにしました。理由は、リビング学習用に2人で1つの勉強机を使っていたのですが、2人で1つでは収納が足りなくなってしまったからです。リビングに勉強机を2台置くこともできないし、子ども部屋に置いても寝る時以外子ども部屋に行かないので、「机を手放して、棚を置いて収納を増やした方が良いのでは」との結論に達しました。近々つばさ館に持っていきます。

お役目が終わった家具は再生され、また必要な人のところへ！なんて素敵なサイクルなのでしょう。つばさ館の存在を教えてくれたのは、初雁の先輩ママ。再生家具は好き嫌いがありそうですが、うちには大ヒットでした。うちが使った二段ベッドや勉強机は、次は誰が使ってくれるのだろう。不要な家具を手放したのに、つばさ館に並ぶ家具を見たらまた何か連れて帰ってきちゃうかも。こればかりはタイミング、運なのでね。以前ほど頻繁に通えなくなってしまいましたが、久しぶりにつばさ館に行くのが楽しみです。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「動き出す」

今月のねがい

- 身近な自然、生き物やさまざまな素材に触れる
- やってみたい遊びに自分から動き出し、楽しみに登園する
- 神様に守られていることを知る

学年別のねがい

- (1歳) 園生活に馴染み、いろいろなものに気づく
- (2歳・満3歳) 周りの環境に目を向ける
(年少組) いろいろなことをやってみる
(年中組) それぞれに興味を広げて親しむ
(年長組) 年長ならではの活動を楽しみ、頼られる喜びを感じ始める

ひとこと

朝の賑やかだった泣き声も落ち着き始め、笑顔あふれる子どもたち。支度も早々に園庭に出て、蟻を見ついたり、さくらんぼの実を食べたり、少しずつそれぞれが楽しいこと、好きなことを見つけて動き出す姿があります。散歩に出れば、野に咲く花や虫との出会いに心躍る季節。バギーから覗く子どもたちの目がキラキラしていました。さまざまな発見、触れ合いを大切にしながら、一人一人と寄り添い、ゆったりと過ごしていきたいと思えます。

今月の聖歌 「みどりのわかば」

今月の歌

「カレーライスのうた」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	月	
2	火	年長組親子遠足
3	水	憲法記念日
4	木	みどりの日
5	金	こどもの日
6	土	就労家庭保育実施日
7	日	
8	月	
9	火	年中組親子遠足
10	水	幼児部連絡係打合せ 聖書研究①
11	木	アルミ缶回収
12	金	全体礼拝 ↓
13	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会①
14	日	
15	月	カレー会食
16	火	園児内科健診①
17	水	
18	木	年少組親子遠足
19	金	全体礼拝
20	土	就労家庭保育実施日
21	日	教会バザー 学園理事会
22	月	
23	火	
24	水	5月生まれ誕生会(年長組出し物)
25	木	
26	金	全体礼拝
27	土	就労家庭保育実施日
28	日	聖霊降臨日
29	月	
30	火	



チャプレンのページ

春夏秋冬



「実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

マルコによる福音書 第4章 29節

日本は四季が豊かな国であると言われていました。しかし昨今は地球温暖化の影響か、夏の暑さと冬の寒さがどんどん極端になって、春と秋がなくなっていくのではと危惧されています。確かに、このところ続いた夏の異常な暑さや、冬の大雪の影響を聞いたり、入学式の代名詞だったはずの桜の花も、今では卒業式の花になりかけていて、入学式の頃はすっかり葉桜になっているのが珍しくなくなりました。四季の変化は子どもたちの成長に多くな影響をおよぼす大切な存在ですので、日本が豊かな四季の国であり続けられるよう、私たちもそれぞれ責任があるように思います。

イエス様が人々に教えを宣べ伝えたり、奇跡を行われたり、たとえ話を用いて神様の国について語られたのは、ユダヤの国（現在のイスラエル）の北部、ガリラヤ地方においてでした。ガリラヤは地中海性気候のため農業に適しており、現在に至るまで農業が盛んに行われています。種を蒔き、花が咲き、実が熟して収穫を行う風景は、ガリラヤの人々にとって身近な風景でした。ガリラヤの人々はユダヤ社会で貧しく、差別を受けながら生きていかねばなりませんでしたが、その生活は決して楽なことではありませんでしたが、大きな自然の中で、多くの収穫が与えられるのは、神様からの何よりの恵みであり、神様への感謝を忘れることはありませんでした。

実が熟すと鎌を入れるという冒頭の言葉は、ガリラヤの農業のことだけを言っているわけではありません。これは、人間の生涯のことを言っているのです。収穫物が実によって良い悪いが判断されるように、私たちの生涯によって、神様から判断されるというわけです。聖書には、神様の国に入るのにふさわしいかどうかを判断される時が来ると書かれており、その時が収穫にたとえられているのです。だから日頃の生き方に十分注意しつつ、悔いのない日々を過ごしていくことが大切であると言っているのです。

このところ宗教的な事件が続き、宗教への信頼が変わってきているように思います。警戒される方々も少なくないように思います。

宗教の基本は、「その人が、最もその人らしくあること」であり、「平和に、一人一人が大切にされつつ生きる社会の実現」にあります。イエス様が説かれた内容もすべてそのことであり、差別に対して厳しい教えが少なくないのもそのためです。

子どもたちの幼稚園生活も、連休後には新しい段階に入っていきます。イエス様のお話を直接聞くことも増えていきます。イエス様は子どもたちへの祝福を熱心になさいました。幼稚園の業も、その基本上にあるのをご理解いただければと思います。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

はじめの一步

元氣な泣き声で慣らし保育がスタートしましたが、今ではすぐに泣き止んでウッドデッキをハイハイやヨチヨチ歩きで探索したり、好きなおもちゃで遊ぶ姿が見られるようになり、とても嬉しく思っています。泣いたり笑ったりどの表情もとってもかわいいつくし組です。天気がいい日には散歩へ。立ち乗りバギーと4人乗りバギーを順番に入れ替わりながら散歩を楽しんでいます。道行く人に「あら～かわいい」と声をかけられると人見知りスイッチが作動され、固まってしまうのですが、去り際には笑顔でバイバイと手を振る余裕も出てきました。園庭では園児に囲まれて大人気です。「ちょうだいな」とウサギのキャベツを分けてもらい、一緒に餌やりを楽しんだり、捕まえたテントウムシを見せてもらうなど大きい子たちとのかかわりを楽しんでいます。たくさん遊んだあとは給食。椅子を並べると「ごはん！」と集合するほどお楽しみみの時間になりました。ゆっくり一歩ずつ園生活に慣れ楽しい事を見つけていこうね。

もも組

自然の楽しさや心地よさを友だちと共有

散歩が大好きなもも組は「今日は〇〇公園に行くよ」と伝えると行く気満々！帽子をかぶっていざ出発。最近「チューリップ」や「すうじのうた」などの歌を友だちと歌いながら歩いたり、「今日はパン食べてきたんだ」とおしゃべりを楽しみながら目的地に到着。公園でピクニックのようしておやつを食べるためシートを敷くと、ぎゅうぎゅうになりながらも仲良くおやつタイムです。仲良しのもも組は公園で誰かが何かを見つけると「わあーっ」と集まってきます。だんごむしを見つけると触れる人は自分で捕まえて、少しドキドキする人も友だちを真似て「ちょこん」と触ってみたりします。ちょうどいい長さの枝を誰かが見つけると、いつの間にかみんな枝を持っていることもあります。誰かが「風が気持ちいいね」と言うと「気持ちいいね」と返す子どもたち。こんなふうに自然の楽しさや心地よさを友だちと共有できるって素敵だな、と思います。仲良し6人組、けんかもするけどたくさん笑って泣いて楽しく1年間過ごそうね。

ちゅうりっぷ組

一人一匹こいのぼり…個々の発想力が爆発

5月5日は「こどもの日」。こいのぼりを揚げたり人形を飾ったりして、子どもたちが大きくなったことをお祝いし、これからも元気にすくすくと育ちますようにと願う日です。そして毎年初雁幼稚園では鯉のぼりを作ります。今年は壁面制作として一人一匹ずつ鯉のぼりを作りました。ちゅうりっぷ組は水色、ピンク色、黄色、黄緑色の中から自分で好きな色の鯉のぼり

を選び鱗に見立てたシールを貼ります。入園してから初めてみんなで集まって行う制作でしたが、先生のお手本を見ながら「早くやりたい！」と意欲的な子どもたちの姿に担任も一安心。シールが配られると好きな場所に自由に貼る子、きれいに一列に並べながら貼る子、色を分けながら貼る子など。個々の発想力が爆発した、バラエティー豊かな作品の数々ができあがりしました。

新年度が始まり、あっという間に1ヶ月が経とうとしています。少しずつ新しい環境に慣れ子どもたちの笑顔も増えてきました。5月のさわやかな風を感じ、毎日青空の下のびのびと過ごす子どもたちを、これからは20匹の鯉のぼりたちと一緒に見守っていきたいと思います。

たんぽぽ組

自分専用の保育用品を持つようになって

黄色いたんぽぽバッチになって、はりきるたんぽぽ組のみんな。朝の支度や、帰りの支度、お弁当の準備など、自分たちの力でやり遂げようとする姿が見られ、成長を感じます。クラスの集まりの時も、お話をよく聞いていて、反応が良く、1つの話が色々なことへと広がりをみせます。

たんぽぽ組になって、変わったことの1つは、自分専用の保育用品を持つようになったこと。ハサミ、クレヨン、マーカー、のりを自分の引き出しに入れて、好きな時に好きなように使うことになります。大切な用品なので、1つ1つ使い方を確認してから、引き出しに入れることにしました。ハサミを使う時はどうしたらいいか、みんなで確認しました。そして壁面制作の鯉のぼりを、ハサミを使って作りました。切り過ぎてしまうことがなく、上手に鯉のひれを切り、終わったら引き出しにきちんと片付ける姿に感心しました。いろいろなことにチャレンジしていくたんぽぽ組。持てる道具も増え、この1年、活動が広がっていくのが楽しみです。

すみれ組

うまうまいかないこの時間も大切に



先日、黒門近くのさくらんぼの木からまだ青くて小さな実がたくさん落ちていることに気づいたすみれ組。

「これだとみんなが食べれる分が減っちゃう」「この間木を揺らしている子がいたよ」「急いでお知らせしよう」と言うことで、張り紙を書いて全員にお知らせしました。週明け、さくらんぼの木には赤くおいしそうなお実がたくさん！まずは自分たちで味見し、おいしいのが分かると「1人1個だよ」と小さなお友だちに約束を伝えながら採ってあげていました。もらった子は「食べていいの？」という表情で、すみれ組が食べるのを真似して恐る恐るパクリ。「甘くておいしい！」と笑顔の輪が

広がりました。でも実は、すみれ組もさくらんぼの木を揺らしていたことは…ここだけの秘密にしておこうネ。笑（良くなかったことに気づいてもうしない約束をしたから）

まちがえてしまったり、うまくできない時もまだまだあるけれど、自分たちなりにすみれ組としてがんばろうとしていることを日々感じます。うまうまいかないこの時間が、一人一人の成長へつながる大事な時なんだろうなと思い、今は心の中で「がんばれ！」と応援しながら見守ったり、一緒に考えて過ごしています。



今月の聖書のおはなし



☆ 5月12日 「主の祈りの話」

マタイによる福音書6:1～15

幼稚園ではお祈りをする時に、みんなで主の祈りを唱えます。主の祈りは、イエス様が教えてくださった大切なお祈りです。人に見てもらおうためのものではありません。言葉数が多ければいいものではありません。どんな場所においても、神様は私たち一人一人を見ていてくださいます。大切な主の祈りについて、子どもたちの身近な出来事からお話をします。

☆ 5月19日 「世界の始まり」

創世記1:1～2:25

聖書に最初に書かれているのは、神様が世界を造られたお話です。1日目は光と闇、昼と夜、2日目は水を上と下に分け、3日目に海になり、乾いたところが地となり、植物がつくられます。4日目は太陽と月、5日目は水の中の生き物と鳥がつくられ、6日目に地上の生き物がつくられます。そして最後に人がつくられたのです。7日目、すべての仕事を終えた神様は休まれ、その日を祝福しました。

☆ 5月26日 「アダムとエバ」

創世記3:1～24

神様は土の塵からアダムをつくり、アダムのあばら骨からエバをつくりました。アダムとエバは裸でしたが、その事に気がつかず、恥ずかしくありませんでした。

ある日、賢い蛇がエバに近づいて誘惑し、エバは神様から食べたらいけないと言われていた木の実を食べてしまいました。アダムもエバに誘われ木の実を食べたとたん、2人は自分たちが裸であることを知り、恥ずかしくなりました。

このことを知った神様はエデンの園から2人を追い出しました。これにより、人間は生きている間、食べ物のために汗を流し、子どもを生む際には苦しみを受け、塵からつくられた人間はまた土に戻るようになりました。